

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ラベージ 5	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.514	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

PAPからピンとの距離

5 1/4 インチ

番

研磨剤

比較対照ボール：ラベージ 4

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

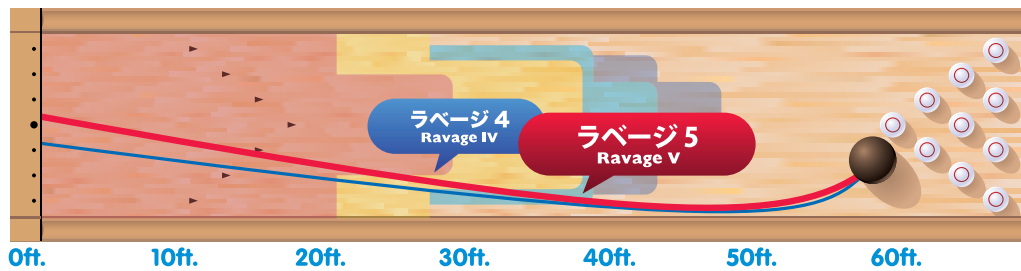
ポリッシュ

PAPからピンとの距離

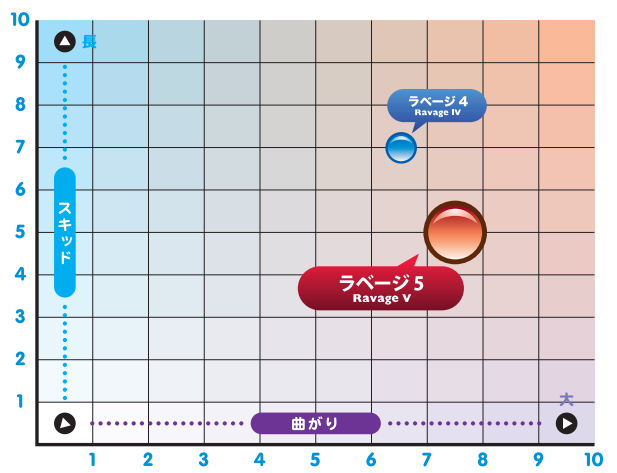
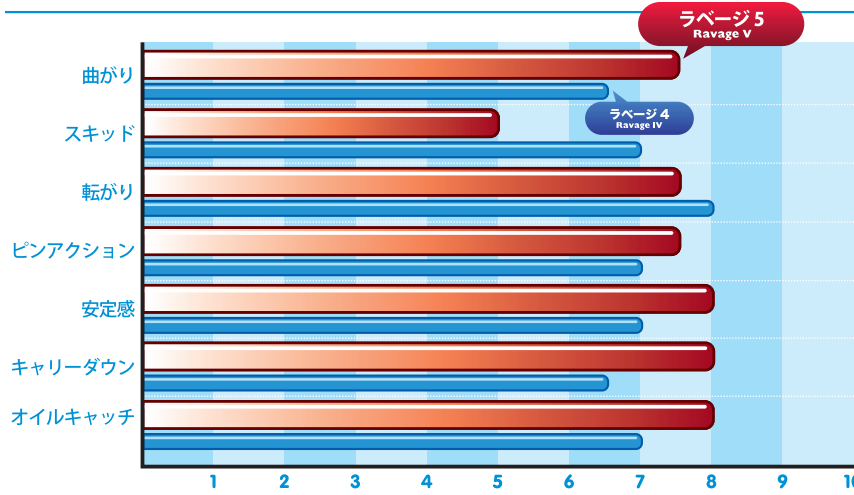
4 1/4 インチ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション	Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	バックエンドリアクション	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	レンジス	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll
------------	-----------	-----------------	------------	-----------------	-----------	--------------	--------	---------------	-----	--------------	-------------	------	------------	--------------	----------	-------------	-----------

ボールの評価

圧倒的なポテンシャルで人気ブランドのモーリッチ社からラベージシリーズの最新作「ラベージ V」をリリース致します。この「ラベージ V」のコア形状はラベージシリーズを受け継ぐべく、言わずと知れたフリップブロックコア。カバーストックにウルトラハイブリッドカバーストックを採用し、ピンヒットまでの強さを求めたボールです。今までのラベージシリーズはドライゾーンからの過激なリアクションを真髄とし、攻撃的なラインナップがほとんどでありました。しかし、現在ボールの飛躍的なパフォーマンス向上と共にコンディションの感じ方も常に変化を伴うようになったもの事実です。この「ラベージ V」はオイルの濃淡で表れる反応差を最小限に抑え、コンディションによってのリアクションの変化を少なくしています。投球したイメージは今まで発売されたラベージシリーズ中、最もオイルに強く、ミッドエリアからかなり強くキャッチするイメージがあります。バックエンドリアクションの過激さは前回発売された「ラベージ IV」に譲るとしてもオイルに対しての安定感があり、余程のドライもしくはオイリーなコンディションで無い限り、**曲がり幅が読みやすい常に同じようなリアクションのイメージを保てるボールに感じました。**ピンヒットまでパワーを持続できることはスキッド・フック・ロールに至るまでのエネルギー放出のバランスと同時に、モーリッチ社真髄の軸移動を完了させることだと思えます。オイルを長く使用し投球したとき、そのパフォーマンスは歴然です。

特記事項

過激なリアクションを抑えてまでもオイルの濃淡に左右されないパフォーマンスにこだわりを持った仕上がり。モーリッチファンはさらに増加することでしょう。